

次世代高規格ユニットロードターミナル検討会（第1回）

議事要旨

日時：令和5年2月2日（木）17:00～19:00

場所：中央合同庁舎2号館 共用会議室2A・2B（web併用）

- 次世代高規格ユニットロードターミナル検討会開催要綱（案）について、事務局から説明し、了承された。
- 内航フェリー・RORO船輸送の現況と今後の課題及びターミナル機能強化の取組内容、検討会の今後の進め方、内航フェリー・RORO船輸送の現況と今後の課題に関するアンケート（案）について、事務局から説明した。
- 敦賀港における次世代高規格ユニットロードターミナル形成に向けた取組について、福井県及び北陸地方整備局から説明を行った。
- 意見交換では、構成員から、以下のような意見があった。

<議事（1）について>

- ・ 現在、ゲート入退場管理やターミナル内シャーシ位置管理について手入力で行っているターミナルも多く、今後、増加する貨物需要や人手不足に対応するためにも、情報通信技術や自動技術を用いた荷役効率化などのDXの取組が必要である。
- ・ ターミナル内のシャーシを探すのに多くの時間を要しているが、労働時間制約が生じる中、致命的な問題。今後、シャーシ台数の増加も見据え、ゲート入退場管理やターミナル内シャーシ位置管理が出来る技術導入の必要性を感じているが、費用面が課題となり導入が進んでいない。また、技術導入に当たっては、汎用性のある仕様とすべく、共通した要素は国において検討を行って欲しい。
- ・ 船舶のリプレイス時には積載台数を増やすなど大型化していることから、狭隘なヤードを広くするなど、ハード面の対策も必要である。
- ・ モーダルシフトを推進するためには、陸送のトラック輸送からより大型のトレーラー輸送への転換が望ましく、貨物の大口化やパレット化を行う必要がある。また、トレーラーによる輸送を行う場合は、ヘッドとシャーシの連結性の確認や、牽引免許や特車申請が必要である点に留意が必要である。
- ・ 最近、小口貨物の輸送のオーダーが増えてきており、小口貨物を混載でトレーラーに仕立てるための積替施設の必要性を感じている。
- ・ 2024年度からのトラックドライバーへの時間外労働上限規制等に際し、紹介のあったJA全農の例のように、内航海運へモーダルシフトすることでリードタイムを変更しないで対応することができる場合もあるようだが、モーダルシフトは距離帯や運航ダイヤ等によっても進み具合が異なると思うので、どのようなケースだと進むことになるのか、整理いただきたい。

- ・ 国内輸送の機関分担率について、例えば、500km以上の距離帯の、内航フェリー・RORO船による輸送の分担率など、マクロな視点での規模感の紹介もお願いしたい。
- ・ 沖縄・奄美航路や離島航路ではコンテナを運んでいる。本州航路でもシャーシに載せて運んでいる船社もある。本検討会の内容は、コンテナ輸送にも展開できるかもしれない。
- ・ 内航海運という表現は、統計資料などで、フェリーを含まず、貨物船のみを示す場合が多い。本検討会のとりまとめに当たっては、用語の定義に留意してほしい。
- ・ 検討会のとりまとめに当たっては、自動運航船など、行政以外の船会社などによる取組も紹介すると良い。
- ・ 荷主への訴求を考えた際、荷役効率化のほか、二酸化炭素排出量削減といったグリーン化という観点も打ち出していく必要がある。
- ・ 何が障壁となってモーダルシフトが進んでいないのか、一つずつ確認をして、対策を考えていく必要がある。
- ・ 次世代高規格ユニットロードターミナルを形成していく上では、ヤードスペースの確保が理想的ではあるものの、立地制約がある港湾では、ターミナルの後背地にスペースを確保する観点も考える必要がある。
- ・ ヤードスペース不足に対して、同じ港では輸送船舶をなるべく近くのターミナルに集めてヤードを共同利用することやシャーシの位置管理など情報システムによりヤードの利用時間短縮を図ることで解決できる面もある。ただし、情報システムなど、それぞれの取組がバラバラだと、中々導入が進まないため、標準化というのは大事なテーマである。
- ・ 災害発生時に船を早期出港する際、船の綱離しの要員が現地に来られない場合もある。自動係留装置は、自動で船をリリースすることができる装置であり、こうしたクイックリリースの装置が、新たな岸壁整備に際しては附帯施設として必要と考える。
- ・ 自動係留装置は、船を係留索により防舷材に寄せた後に、吸盤を付けて真空にして係留する装置。船体の安定に一定の効果がある可能性があるが、実証試験を通じ引き続き検討が必要。

<議事（2）について>

- ・ 検討会の今後の進め方については、事務局説明の内容で異論はない。
- ・ 内航フェリー・RORO船社へのアンケート（案）について、陸上電力供給設備などの利用に当たっては費用のかかる電気料金の支払いも課題となる。問27の自由記述欄において、「・電気料金について、・・・の課題がある。」という旨の記述の例示を追加すべきである。

(以上)